

科目名 (英)	就職講座 I Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸 南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style(3回目の授業で使用)			事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。	
教材	スケジュール帳・メモ帳・筆記用具					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る	日常行動スコアシートで自分の特性を知る。BBQチーム決め。ITリテラシーにてSNSを学ぶ。入学式後のワーク。
2	クラス目標をクラス会議で決める。	1年後の自分、クラスを創造し目標を決め、またクラスルールを自分たちで決める【クラス会議】
3	プロ職業人をを目指す	Hand-book of Life Styleを使用し、学校生活・日常生活・社会生活について学ぶ。
4	職業研究/クラス会議	美容業の職種(スタイリスト、ヘアメイク、ブライダル)を理解する。(6月中に専攻授業決定)
5	職業研究	就職活動に向けて外部の方より就職活動について学ぶ。
6	自己分析	自分史を作成し、自分の強みを知る。
7	中間試験	①自己PRを作成。750文字～800文字でまとめる。 ②スポフェス種目決め(予定)
8	グループワーク/クラス会議	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
9	グループワーク	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
10	職業研究	就職活動に向けて外部の方より就職活動について学ぶ。
11	夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。
12	自己肯定感を高める。	クラスみんなへ言葉の花束を使って、自己肯定感を高めるワーク。 【地元自慢持ってくる】
13	自己分析	グループワークを通じて自己分析をする。
14	定期試験	自己PR750文字～800文字。
15	定期試験振り返り	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。整理をすることで職業選択の決定につなげる。

科目名 (英)	保健Ⅰ Health	年次	1	実務経験	担当	高桑 泰子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	薬剤師として病院の薬剤部、調剤薬局、在宅医療を経験し、多くの患者さんに接しながら医療に携わってきています。将来美容師になる皆さんにとって役に立つ知識を分かりやすくお伝えします。					
目的 科目概要	人体の構造及び機能について理解する。国家試験合格とともに、その後も役立つ知識の習得を目指します					
到達目標	人体の構造及び機能について理解する。国家試験に向けて必要な知識を習得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」			事前事後 学習と その内容	事前学習として教科書に目を通す。事後学習は問題を解き知識の習得に努める	
教材	教科書およびプリント					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	この科目がなぜ必要か、また授業の進め方について説明する
2	第1章 頭部、顔部、頸部の解剖学	人体各部の名称を知り、頭部、顔部、頸部の解剖学を学ぶ
3	第2章 骨格器系	骨の機能と構造、骨の連結、骨格器とその働きを学ぶ
4	第3章 筋系	筋の種類とその特徴、主な骨格筋とその働き、表情筋と表情運動、理容・美容の作業と筋疲労について学ぶ
5	第4章 神経系	神経系の成り立ち、中枢神経系とその働きを学ぶ
6	第4章 神経系	中枢神経系と抹消神経系の働きを学ぶ
7	中間試験	
8	第4章 神経系	抹消神経とその働きを学ぶ
9	第5章 感覚器系	視覚、聴覚、平衡感、味覚、嗅覚、皮膚感覚を学ぶ
10	第6章 血液・循環器系	血液のあらまし、血液循環の仕組みを学ぶ
11	第6章 血液・循環器系	血液の循環経路、心臓と血管の働きを学ぶ
12	第6章 血液・循環器系	心臓と血管の働き、リンパ管系の働きを学ぶ
13	第7章 呼吸器系	呼吸器系のあらまし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動について学ぶ
14	定期試験	
15	定期試験解説、振り返り	解答解説、振り返りを行い、理解を深める

科目名 (英)	美容技術理論 I Beauty technological theory	年次	1	実務経験	担当	武田郁乃 助手 宮城裕美
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月1~4限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 理論を理解し、実習に役立てる。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容技術理論1・2			事前事後 学習と その内容	授業の後、復習をし実習では理論を思い出しながら臨んでほしい。	
教材	実習で使用する教材					
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	序章 美容技術理論を学ぶにあたって	教科書1 P4~10
2	1章 美容用具	教科書1 P14~33
3	1章 美容用具	教科書1 P14~33
4	2章 シャンプーイング	教科書1 P34~63
5	2章 シャンプーイング	教科書1 P34~63
6	3章 ヘアデザイン 中間試験について	教科書1 P64~85
7	中間試験	教科書1 P4~85
8	4章 ヘアカットイング	教科書1 P86~124
9	4章 ヘアカットイング	教科書1 P86~124
10	5章 パーマネントウエービング	教科書1 P126~156
11	5章 パーマネントウエービング	教科書1 P126~156
12	7章 ヘアカラーリング	教科書1 P220~243
13	7章 ヘアカラーリング	教科書1 P220~243
14	今までの復習 定期試験について	教科書1
15	定期試験	

科目名 (英)	美容実習 I アシスタントテクニク Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	井上 秀浩
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	水1～4限、金1～4限
講師紹介	美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等美容師の可能性を追求する。また近年では、後世の育成に力を注ぐ。					
目的 科目概要	シャンプーの実技を軸にサロンワークでの実践的な技術や動き等知る事が出来る。また、アシスタントとしての意識と仕事の確立をする事が出来る。					
到達目標	アシスタントとしての基本技術をシャンプーを軸に様々な技術を習得が出来、接客業の基本的な意識やマナーを身に付ける事が出来る、美容という仕事への不安を解消し自信を持って挑む事が出来る。美容業の楽しさや難しさ今の美容業界の今までと現状を知る事によりモチベーションを上げる事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書	美容技術理論 1 美容実習1	事前事後 学習と その内容	社会人としてのマナーや意識を学び少しづつ技術を学んでいきましょう、毎回の手順などの見直しは必須になります			
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業目標の確認(授業に対しての注意事項)	接客について、清掃の大切さを知る事が出来る。コミュニケーション、接客について(挨拶や身だしなみ、表情を考える)今のサロンの状況知る事が出来る、清掃の大切さ、マッサージを習得出来る
2	器具等、取扱いの説明	シャンプーの一連の動作を理解しそれぞれのシャンプー一台の器具の扱いも理解し出来る様になる。(タオル、クロス等のたたみかた、基本姿勢、お客様への声かけ等)
3	プレーンリンスの施術(展示、実践)	プレーンリンスの手順を理解し施術が出来る様になれる。コーミング、タオルターバン施術の仕方と理由を理解することが出来る。
4	プレーンリンスの復習、1シャンプーの展示、実践	前回の復習と1シャンプーの手順を理解し施術が出来る様になれる。コーミング、タオルターバン施術の仕方と理由を理解することが出来る。
5	お客様としての1シャンプーの実践	お客様を想定して、声かけ、プレーンリンス、1シャンプー、コーミング、タオルターバン、一連の動作をスムーズに施術出来る様になれる。
6	1シャンプーの理解度を深める、ドライの仕方の展示	お客様を想定して、今までの復習し細かい所までを追求できる。ドライの基本的な考え方や施術の仕方を理解度を深める。
7	定期試験(プレーンリンス、1シャンプー、ドライ)	お客様としての意識でのプレーンリンス、1シャンプーを25分、ドライを30分で施術することが出来る。
8	ハンドドライ、ブローの基本的な理論を知る	基本的なドライ方法、手順とドライの理論と手順を理解し施術が出来る
9	ハンドドライ、ブローの基本的な理論を知る	基本的なブローの方法、手順ブローの理論と手順理解し施術が出来る
10	癖毛、メンズのドライの基本的な理論を知る	癖毛、メンズのドライヤーの角度、方向を考え理解し施術が出来る
11	癖毛、メンズのブローとシルエットの理論を知る	癖毛やメンズのブラシの入れ方、角度の理解と全体のシルエットの
12	2シャンプー展示、施術(ドライ&ブロー)	1シャンプーの一連の動作を理解し、2シャンプーの手順を理解して、施術できる。引き続きブローまでの施術でクオリティーを上げ様々な髪質にも対応できる技術を身につける事が出来る。
13	2シャンプー施術(ドライ&ブロー)お客様の誘導	1シャンプーの一連の動作を理解し、2シャンプーの手順を理解して、施術できる。引き続きブローまでの施術でクオリティーを上げ様々な髪質にも対応できる技術を身につける事が出来る。
14	定期試験(サロンワーク、1シャンプー、ドライ、ブロー)	お客様として誘導やプレーンリンス、1シャンプーを20分、ドライ、ブロー、スタイリングを30分で施術することが出来る。チームワークを考え自分の役割を理解し行動出来るようになる。
15	定期試験(サロンワーク、1シャンプー、ドライ、ブロー)	お客様として誘導やプレーンリンス、1シャンプーを20分、ドライ、ブロー、スタイリングを30分で施術することが出来る。チームワークを考え自分の役割を理解し行動出来るようになる。

科目名 (英)	美容実習Iアシスタントテクニク Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	本城美実
		授業形態	実技			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	月1~4限、木1~4限
講師紹介	サロン勤務店長を務め、VidalSassonAcademyで技術を習得その後フリーランスに映像、MV、ブライダル、イベントなど活動している講師					
目的 科目概要	ヘアアレンジ、カラーリングを学びアシスタントテクニクの基礎を修得する。					
到達目標	美容技術における、基礎技術を修得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	事前事後 学習と その内容 ヘアアレンジでは、苦手の技術、特にピンギは後期のオールウェーブに欠かせない技術なので練習して欲しい。カラーリングは美容技術理論を理解して技術にあたって欲しい					
教材						
特記事項						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
1	アイロン(コテ)テクニク	用具の使い方、内外ミックス巻き	
2	ピンギテクニク	ピンで髪をとめ方を修得	
3	ゴムで結ぶテクニク	黒ゴムで結びかたを修得	
4	編み込みテクニク	表編み、裏編みを修得	
5	ハーフアップ	ルーズなハーフアップ(毛先ミックス巻き)	
6	ルーズアップ	アイロンで巻いてから、ゴム、ピンを使いアップ(中間試験)	
7	中間試験	ルーズアップ	
8	カラーリング	カラーリング理論、ウィッグカット、塗布練習	ウィッグ①
9	毛先を染める	根元を塗らずに毛先を染める	ウィッグ①
10	根元を染める	毛先を染めたウィッグの根元を染める	ウィッグ①
11	ホイルワーク	ウィーピング	ウィッグ②
12	ホイルワーク	スライシング	ウィッグ②
13	染毛料	色の違いを学ぶ	ウィッグ①
14	作成	定期的試験のデザインシート作成、仕込み	
15	定期試験	カラーリング、仕上げ	

科目名 (英)	美容実習 I カット Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内 有美
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	木1～4限、金1～4限
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導する。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルに合わせたブローで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、正しい姿勢とシザー開閉を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I			事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。	
教材	マニュアル・動画					
特記事項	授業で指示した内容は、必ずメモをとること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティングについて ウイッグ①	用具の確認、使い方、セッティングについて・専門用語の説明。コームとシザーワーク
2	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハンドブロー
3	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハーフラウンドブラシでブロー
4	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ②	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー
5	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ②	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)・中間試験について
6	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ③	準備7分。シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)
7	中間試験 ウイッグ③	ワンレングスカット・ブロー(60分)
8	前下がりのボブ ウイッグ④	準備7分・前下がりのボブカット・ブロー
9	前下がりのボブ ウイッグ④	準備7分・前下がりのボブカット・ブロー
10	前下がりのグラデーション ウイッグ①	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ハーフラウンドブラシとスケルトンブラシでブロー
11	前下がりのグラデーション ウイッグ①	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
12	前下がりのグラデーション ウイッグ②	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
13	前下がりのグラデーション ウイッグ②	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方・定期試験について
14	前下がりのグラデーション ウイッグ③	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
15	定期試験 ウイッグ④	前下がりのグラデーションカットのみ(60分)

科目名 (英)	美容実習 I ワインディング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城 裕美・小坏 亜矢子 助手 足立祐季
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	120	有	開講区分	前期
		単位	4			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	目的:パーマをかけるための技術・習得できる 概要:細かい作業の繰り返しになるため、基本を大切に					
到達目標	全頭のタイムを計って巻くことで用具の使い方や作業姿勢を模倣する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I			事前事後 学習と その内容	上巻き・下巻きの復習をし、指を慣らしておくとい	
教材	WD用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティングについて	セッティング7分 ブロッキングの取り方 下巻き・上巻き ウィッグの洗いか
2	国家試験スタイルについて	巻き方の復習 ブロッキング ステムの角度
3	国家試験スタイル センター	センターを巻く 巻き方の確認
4	国家試験スタイル センター	巻き方の確認 1本1分でタイムを計る
5	国家試験スタイル センター	ブロッキング3分 センター15分でタイムを計る
6	中間試験について	ブロッキング3分 センター15分でタイムを計る 巻き方の確認
7	中間試験	ブロッキング3分 センター15分でタイムを計る 巻き方
8	国家試験スタイル	フロント～サイドのスライス線導入
9	国家試験スタイル	センターを10分でタイムを計る 全頭仕上げる
10	国家試験スタイル	センター10分 右側20分 左側17分 全頭50分でタイムを計る
11	国家試験スタイル	1分で2本巻く ブロックごと全頭のタイムを計る
12	国家試験スタイル	20分で右側12mm②残り20分で全頭仕上げる 全頭40分でタイムを計る
13	定期試験について	全頭40分 作品の確認
14	定期試験 次回の持ち物について	全頭40分 作品の確認
15	パーマをかける	オールウェーブのウィッグにパーマをかける

科目名 (英)	メイクアップ Make up	年次	1	実務経験	担当	足立祐季
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	月1~4限、水1~4限
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。□					
目的 科目概要	メイク製品の知識、道具の使い方、基礎となるプロセスを学び、美容室、ヘアメイク、マツエクサロン等で必須となる基本技術や知識を身につける					
到達目標	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内にモデルの骨格に合ったフルメイクを美しく仕上げる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	毎授業持参する		事前事後 学習と その内容 □ 専門用語、実技スキルが必要となる為実習後は授業内のメモ等を活用し技術の復習を行い、専門用語は必ず覚える事。□			
教材	メイク道具一式、鏡、消耗品一式、汚物入れ、消毒用品、名札、筆記用具					
特記事項	肌が弱く教材が使用できない場合事前に報告をする					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	メイクアップツール、テーブルセッティング、メンテナンス方法を学ぶ	ブラシ、アイテム等の名称、役割、メンテナンス方法を学び、作業時の身だしを学習する
2	スキンケア、ベースメイク	美しいベースメイクに必要な下地、コントロールカラーについて、ファンデーションの塗布の仕方、コンシーラーを使ったトラブルカバーを覚える。
3	チーク、ハイライト、ローライト	顔の立体を理解し、血色づくりや凹凸感を出すのに必要なテクニックを覚える
4	アイシャドウ	目の形にあったシャドウの入れ方、美しいグラデーションの作り方、色の選択方法を覚える
5	アイライナー、アイラッシュ	ガタツキのない美しいラインの描き方、美しいカールを作るプロセスを覚える。角度に対しての印象の変え方、違いを覚える
6	アイブロウ、リップ	アイブロウの毛の生え方を理解し、美しく描く、唇の輪郭に合わせて美しくルージュを引く
7	中間試験40分フルメイク	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に40分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる
8	クレンジング	適切なクレンジングを覚え、スキンケア効果を高めるプロセスを学習する
9	ベースメイク強化	ベースメイクの仕上がりの完成度を上げる、コンシーラーワークの強化、コントロールカラーの強化
10	アイブロウ強化	左右対象によりグラデーションを強化しアイブロウの仕上がりを強化する
11	キュートメイク	キュートなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
12	クールメイク	クールなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
13	エレガントメイク	エレガントなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
14	タイムアップ練習	定期試験に向けてタイムアタックを行い、その中で道具の使い方や仕上がりの美しさにも気をつける習慣をつける
15	骨格に合ったフルメイクを25分	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる

科目名 (英)	美容総合技術 I Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	科目 責任者	塚本 博美
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1			
講師紹介	企業研修マネー講師・産業カウンセラー・サービス接客インストラクター・おもてなしマスター講師が就職現場に基づいた「おもてなし」が出来るよう細かく指導します。「おもてなしマスター検定」に必ず合格させます。そのためには授業を休まない事が必須です。教本1冊を15回の授業内で全て行います。後半は過去の試験問題を解きながら試験の形式に慣れるようにします。顧客満足を考え、日頃の何気ない立ち居振る舞いや笑顔、癖なども注意を促して行きます。(例えば配布物の受け渡しなども接客マネーに沿ったやり方を指導します)					
目的 科目概要	目的:おもてなしマスター検定合格 概要:職場の人間関係に於いて必要なコミュニケーション技術を身に付け、おもてなし検定習得を目指します。					
到達目標	おもてなしマスター検定資格試験に合格する。合格の為に必要な「おもてなしの心」「おもてなし型」「スキル」を身に付け、実践することが出来る。今まで知らなかった接客敬語をマスターし使えるようになる(小テスト)					
評価方法	出席率/中間試験と定期試験/授業態度/好感度(常に笑顔が出るか)/模擬試験の出来栄え(過去問題)/おもてなし検定の可否 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート □ 作品					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本			事前事後 学習と その内容	日々自分がお客様として店に行った際に常に「おもてなし」を意識する感覚を磨く。お客様の立場で満足・不満足的心境を知る。どんなサービスがお客様に喜ばれるのかを考える。好印象を持って貰えるように日頃から立ち居振る舞いに注意する。	
教材	プリント(補助教材)					
特記事項	集中力を高める為に毎授業、敬語をテストする⇒敬語に慣れる。何度も口に出して接客敬語を覚える。心理テストで自分を理解する。					

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	おもてなし検定について	演習	オリエンテーション。授業の受け方のルール。自己紹介。「おもてなし」とは何かを知る。
2	ニコニコトレーニングとおもてなし体験について	演習	「ニコニコトレーニング」の実践。笑顔の重要性。「好感度の高い笑顔」を身に付ける。グループワーク「おもてなし体験」を話しあい、発表。
3	おもてなしの「心」について	演習	おもてなしマスター資格試験に就いてのレクチャー。おもてなしの定義に就いて理解する。おもてなしの心について理解する。
4	おもてなしの「5つの型」について	演習	おもてなしの5つの型を知る。グループワーク「聞く」と「聴く」の違い。アクティブリスニングを体得する。ロールプレイング。
5	傾聴トレーニングの実践	演習	リフレクティングの仕方を身に付ける(相槌)。うなずきの仕方を身に付ける。感情の受容の仕方を身に付ける。
6	おもてなしにおける時間管理について	演習	お客様をもてなすにあたって、余裕を持って準備することの大切さを理解する。お客様の立場・感情を踏まえた速い対応の大切さを理解する。お客様の立場・感情を踏まえた時間の長さを意識する。
7	中間テスト実施	演習	授業の振り返り、中間テスト(小論文あり)
8	環境設定について	演習	お客様に快適と安心を与える空間とはどんな空間でどんな要素が必要なのかを知る。事前調査により得たお客様の属性や個性を反映させた環境作りを考えることが出来る。五感を磨くトレーニング。
9	場面演出について	演習	感動を与えるような場面演出について理解する。おもてなしの意図を正しく伝える為のプレゼンテーションスキルを理解する。
10	イベント演出について	演習	場面演出・イベント演出スキルを理解する。変化に対応出来る力を身に付ける事の大切さを理解する。即断即決の柔軟な対応でお客様を不快にさせないアサーティブな自己表現を身に付ける。
11	予想外の変化について	演習	変化対応におけるポジティブシンキング・ストレスマネジメントの必要性を理解する。ポジティブシンキングの本質や自己のストレス傾向を知り、自分自身の人生を有意義に過ごせるような考え方を身に付ける。
12	なぜなぜシンキングについて	演習	おもてなしの5つの型を身に付ける為に有意義な共通スキルについて理解する。顧客の意中を射抜き、意表をつくおもてなしをするために身に付けて欲しいスキルを演習を通じて実践する。
13	共通スキルについて	演習	自分自身の心の状態や傾向を把握する。お客様を理解する手掛かりの1つとしてエゴグラム活用法を習得する。
14	コーチングについて	演習	お客様を目的地まで送り届けるためのコーチングスキルを活用できるようにする。模擬テスト(過去問題)をやって試験対策をする。
15	おもてなし検定の実施	演習	「おもてなし検定」受験

科目名 (英)	美容総合技術 I Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	高橋 名都紀
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	水1~4限
講師紹介	色彩心理に興味を持ったことをきっかけに、色彩に関する資格を多数取得しました(色彩検定1級、パーソナルカラー検定1級等)。色彩に関わるお仕事がしたい!と思いい、個人サロンを立ち上げ、年間200名以上のパーソナルカラー診断をしています。色彩に関する知識だけでなく、みなさんの色感やスキルアップにつながるような実践的なお話やアドバイスをいたします!					
目的 科目概要	目的: 似合う色を活用するポイントを学ぶことで、TPOに合わせた自分の魅せ方(自分ブランディング)を学ぶ。 概要: パーソナルカラーの探し方や取り入れ方の基礎、そのもとになる色彩学の基礎を習得する。 自分自身の似合う色を実習の中で学んでいく。					
到達目標	自分には客観的にどのような色が似合うかを学び、「自分ブランディング」ができるようになる事で自分に自信を持ち、自己表現の幅を広げること。 パーソナルカラー検定3級(2022年度夏季)の合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	色彩活用パーソナルカラー3級公式テキスト			事前事後 学習と その内容	授業の進行に合わせて、必要である場合はホームワークとして課題の予習・復習、問題集、プリントの課題を実施いたします。	
教材	問題集、新配色カード199b、PCCストーン別色相環					
特記事項	はさみ、のり、筆記用具も持参してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション パーソナルカラーとP.I.について	授業のオリエンテーション パーソナルカラー(似合う色)を知ることのメリットと概要を理解する。
2	色の三属性(色相、明度、彩度) カラーワーク	色彩の基本である色の三属性(色相、明度、彩度)を学ぶ。 カラーワーク(トーンマップを完成させる)
3	トーン(色の調子)	トーンの見え方と仕組みを理解する。 身の周りの色や指定された色をトーンでとらえられるように、慣れる。
4	パーソナルカラーの基本 4シーズンのカラーパレット	パーソナルカラーの基本を学ぶ。 4シーズンの色の特徴を見分け、色分類ができるように、色感を磨く。
5	色素の見分け方 色素チェック	生まれながらに持った色素(肌、髪、眼の色と質感)の特徴の見分け方のポイントと、色素と似合う色の関係性を学ぶ。自分はどんな色素を持っているのかを確認する。
6	似合う色の取り入れ方	4シーズンの似合う色の取り入れ方(ファッション、メイク、アクセサリー、柄、素材) 似合わない色の見え方も確認する。
7	中間試験 色名	20問/20点満点 選択・記述問題 系統色名と慣用色名の色の名前前の使い分けのポイントを学ぶ。
8	反射・吸収 色と光	色はなぜ見えるのか?色と光の関係性を学ぶ。
9	模擬試験	検定に備えて過去問題を解き、苦手なところを確認する。
10	模擬試験解説 検定合格のポイント	間違えやすい問題、検定に出やすいポイント、覚えるところを確認する。
11	パーソナルカラー検定	60分 89問 マークシート 合格ライン80%
12	ドレーピング実習①	ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレープを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
13	ドレーピング実習②	ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレープを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
14	授業のまとめ	ドレーピング実習のまとめ 授業を振り返り、期末試験のポイントの確認をする。
15	定期試験	25問/50点満点 選択・記述問題

科目名 (英)	就職講座Ⅱ Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸 南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	金1~4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容の仕事で、どのような知識・技術・接客が必要であるかを知る。また業界ではどのような人材が必要とされるかを知る。					
到達目標	美容の仕事を深く理解し、どのような知識・技術が必要で、業界ではどのような人物が必要とされているか理解する。 希望職種内定のために、必要な就職マナーが備わっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style		事前事後 学習と その内容	積極的に参加し、人前で発表することの経験を積み重ね、みんなの前で自己PRが発表できるようになりましょう。		
教材	手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要なことはメモをとる					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
2	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3	就職スケジュール・履歴書・面接対策(業界来校)	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
4	就職スケジュール・履歴書・面接対策(業界来校)	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
5	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
6	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
7	中間試験	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
8	面接対策	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
9	面接ロールプレイ(業界の人事の方来校)	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
10	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
11	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
12	面接ロールプレイ(業界の方来校)	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
13	面接先や説明会会場での所作	面接先や説明会会場での所作を学び、印象の良い対応が出来るようになる。
14	面接ロールプレイ(業界の方来校)	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
15	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。

科目名 (英)	保健 II Health	年次	1	実務経験	担当	高桑 泰子
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	月1~4限
講師紹介	薬剤師として病院の薬剤部、調剤薬局、在宅医療を経験し、多くの患者さんに接し医療に携わってきています。将来美容師になる皆さんにとって役に立つ知識を分かりやすくお伝えします。					
目的 科目概要	人体の構造及び機能について理解する。国家試験合格とともに、その後も役立つ知識の習得を目指します					
到達目標	人体の構造及び機能、皮膚科学について理解する。国家試験に向けて必要な知識を習得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A (4.0)、89点~80点B (3.0)、79点~70点C (2.0)、69点~60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」			事前事後 学習と その内容	事前学習として教科書に目を通す。事後学習は問題を解き知識の習得に努める	
教材	教科書及びプリント					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	第8章 消化器系	消化器系のあらまし、消化管の仕組みと働き、消化と物質代謝について学ぶ
2	皮膚科学 第1章 皮膚の構造	皮膚の表面・断面・表皮・真皮・皮下組織について学ぶ
3	皮膚科学 第1章 皮膚の構造	皮膚の表面・断面・表皮・真皮・皮下組織について学ぶ
4	皮膚科学 第2章 皮膚付属機関の構造	毛、脂腺、汗腺、爪について学ぶ
5	皮膚科学 第3章 皮膚の循環器系と神経系	毛、脂腺、汗腺、爪、皮膚の血管・リンパ管・神経について学ぶ
6	皮膚科学 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄作用、呼吸作用について学ぶ
7	中間試験	
8	皮膚科学 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	吸収作用、貯蔵作用、免疫・解毒・排除作用、再生作用、毛・爪の働きについて学ぶ
9	皮膚科学 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と嗜好品、皮膚と体内病変、皮膚の水分と脂の状態を学ぶ
10	皮膚科学 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚・付属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ、毛・爪の保護と手入れ、子どもの皮膚トラブルについて学ぶ
11	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因と治療法、皮膚炎と湿疹・蕁麻疹、口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害について学ぶ
12	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	角化異常による皮膚疾患、色素異常による皮膚疾患、血管腫、脂腺母斑、下肢静脈瘤、分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患を学ぶ
13	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	ウイルス・真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾、皮膚の腫瘍を学ぶ
14	定期試験	
15	試験解説、振り返り	回答解説、振り返りを行い、理解を深める

科目名 (英)	衛生管理 I Hygiene management	年次	1	実務経験	担当	渡邊 隆
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1			
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本			事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習	
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	この科目がなぜ必要かまた授業の進め方について説明する
2	公衆衛生の概要と歴史	公衆衛生とはどういうものでありまたそのなかでの歴史上の人物について学ぶ
3	美容師と公衆衛生、保健所について	美容師がどのように公衆衛生に係りやその最前線にある保健所の業務や素子について学ぶ
4	母子保健、成人保健 その1	子供や母親についての統計学的数字や生活習慣病などの成人についての保健を学ぶ
5	成人保健 その2	生活習慣病について具体的な例や統計学的数字を学ぶ
6	老人保健と福祉精神保健	高齢化社会における保険制度や心の病についての問題点などを学ぶ
7	中間試験	公衆衛生全範囲
8	環境衛生の目的と意義、空気と健康	環境衛生とはどういうもので、その中の空地の役割について学ぶ
9	温度、湿度、気流と健康	温度や湿度、気流と我々の関わりについて学ぶ
10	衣服と住居の衛生	衣服の意義や役割、窓や照明、冷暖房などの役割を学ぶ。
11	上下水道と廃棄物	上下水道の供給、ゴミやし尿の処理について学ぶ
12	衛生害虫とネズミ 環境保全	衛生害虫やネズミの影響や美容師が環境の破壊を起こさないようにする為の環境保全について学ぶ
13	第5篇 美容所における衛生管理要領	美容師法よりもより詳しい美容所の管理運営についての管理要領について学ぶ
14	定期試験	ペーパー試験 振り返り
15	試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容技術理論Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	加藤 亜希
	Beauty technical theory	授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	月1～4限
講師紹介	現役美容師の講師が、国家試験筆記対策に向けた講義を行います。実際の実務にリンクできるような提案をめざします。					
目的 科目概要	国家試験対策(筆記)として、教科書の内容と、練習問題を解けるようにすること。美容師として、業界の必要な知識を、学び、実際のサロンワークなど、経験値と結びつける練習をしていく。					
到達目標	国家試験(筆記)の練習問題を解くことができる。基本の名称や、手順、目的を理解し覚える。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができ ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	授業プリントをファイリングしておくこと。わからない単語が出てきたら、検索をして調べること。	
教材	配布用プリント、チームズなど適宜使用					
特記事項	教科書、配布物用のファイル、蛍光ペン、筆記用具は必須です。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	6章 ヘアセッティング	着付け1.2.3.4/.17.18(着物のいろいろ、礼装、花嫁)
2	6章 ヘアセッティング	着付け5.6.7.8(帯、小物、名称)
3	6章ヘアセッティング	着付け(着付けにおける注意事項)
4	11章 日本髪	日本髪1.2.3.4(P113～)/頭の名称振り返り
5	11章 日本髪	日本髪5.6.7.
6	11章 日本髪	日本髪8.9
7	中間試験	1回～6回までの内容で試験を行う
8	12章 着付けの理論と技術	着付け1.2.3.4/.17.18(着物のいろいろ、礼装、花嫁)
9	12章 着付けの理論と技術	着付け5.6.7.8(帯、小物、名称)
10	12章 着付けの理論と技術	着付け(着付けにおける注意事項)
11	9章 ネイル技術	ネイル技術概論・爪の構造・爪のカット形状
12	9章 ネイル技術	ネイル技術と公衆衛生・ネイルケア
13	8章 エステティック	エステティック概論・皮膚生理学・美容におけるマッサージ理論・フェイシャルマッサージ
14	定期試験	8回～13回の内容で試験を行う
15	前期振り返り	前期振り返り/試験解内容解説

科目名 (英)	美容実習Ⅱアシスタントテクニク	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩
	Beauty Practice	授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	水1～4限、金1～4限
講師紹介	美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等美容師の可能性を追求する。また近年では、後世の育成に力を注ぐ。					
目的 科目概要	技術と知識の向上を意識し、よりサロンワークなどに用いられる技術の習得ができ、社会人としてのマナーや意識も持つ事が出来る。					
到達目標	アシスタントとしての美容に関する知識を深め、レベルアップした接客業の意識やマナーを身につけることが出来、基本技術の向上をする事で実在するサロンを想定した、実践的な動き等を習得する事により、求められる人材になることが出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書	美容技術理論 1 美容実習 1		事前事後 学習と その内容 まずはマニュアルによる手の動き方をしっかり覚え、どのように動かしていくかを習慣にする。			
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	バックシャンプーブレンリンスの展示と施術	バックシャンプーの器具の使い方、ブレンリンスの手順の理解と施術
2	バックシャンプーブレンリンスの展示と施術	バックシャンプーの器具の使い方、ブレンリンスの手順の理解と施術
3	バックシャン、1シャンプー展示と施術	1シャンプーの手順やお客様への対応を考えながら施術出来る
4	バックシャン、1シャンプー展示と施術	1シャンプーの手順やお客様への対応を考えながら施術出来る
5	サロンワーク(店舗を考える)	実際のサロンをなど調べ運営の仕方やコンセプトを考え意識の統一を図る
6	サロンワーク(店舗を考える)	サロンを仮定しながらコンセプトやサロン運営を考え意識の改革や共通意識、就職への準備事項の確認などディスカッションをしてモチベーションの向上を図る。
7	サロンワーク(役割分担を考える)A	スタイリスト、アシスタントのバランスや動き方、お客様の動線を考えてプレオープンし改善点等を話しサロンワークに対しての理解度を深める事が出来る。
8	サロンワーク(役割分担を考える)B	スタイリスト、アシスタントのバランスや動き方の確認、技術の最終確認をし、お客様を迎え入れた時失礼の無いよう全体の動きを認識する
9	定期試験 バックシャンプー 1シャン&ブロー	バックシャンプー1シャンの手順と声かけ、ドライ&イブローがサロンレベルで出来る
10	定期試験 バックシャンプー 1シャン&ブロー	バックシャンプー1シャンの手順と声かけ、ドライ&イブローがサロンレベルで出来る
11	アシスタントの動き①(アイロン操作2人体制)	(バックシャン、サイドシャン共通)2シャンプーの施術後2人体制でのブロー時の動き方の理解、様々な技法のアイロン操作の理解をしスタイルの作成の幅を持てる様になれる。
12	アシスタントの動き②(ワインディングのヘルプの仕方)	(バックシャン、サイドシャン共通)2シャンプー施術後ワインディング時の意識、動き方を理解でき、アシスタントとしての動きを習得する。
13	ヘッドマッサージ	(バックシャン、サイドシャン共通)2シャンプー後実践的ヘッドスパを理解し習得する事が出来る。
14	定期試験(2シャンプー、ヘッドスパ、ブロー、スタイリング)A	お客様としての意識でサロンワークの中での自分の役割を状況下で判断して動く事が出来る。
15	定期試験(2シャンプー、ヘッドスパ、ブロー、スタイリング)B	お客様としての意識でサロンワークの中での自分の役割を状況下で判断して動く事が出来る。

科目名 (英)	美容実習Ⅱカット Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内 有美
		授業形態	実技			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	2		曜日・時間	水1～4限、金1～4限
講師紹介	美容師として長きにわたり経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導する。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルな合わせたぶろーで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、応用となる国家試験第一課題スタイルを習得する。正しい姿勢とシザー開閉を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。	
教材	マニュアル・動画					
特記事項	授業で指示した内容は、必ずメモをとること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ローレイヤー ウィッグ⑤	ローレイヤカット・ロールブラシを使ってブロー
2	ローレイヤー ウィッグ⑥	ローレイヤカット・ロールブラシを使ってブロー
3	セიმレングス ウィッグ⑤	セიმレングスカット手順①
4	セიმレングス ウィッグ⑤	セიმレングスカット手順②
5	セიმレングス ウィッグ⑥	全頭カット・中間試験について
6	セიმレングス ウィッグ⑥	全頭カット
7	中間試験 ウィッグ⑦	セიმレングス
8	国家試験第一課題 L23ウィッグ①	トップ～バックのヘムライン導入
9	国家試験第一課題	前回までの復習 第3ブロック導入
10	国家試験第一課題	第3ブロックまでの復習・強化
11	国家試験第一課題	前回までの復習 第2ブロック導入
12	国家試験第一課題	第2ブロックまでの復習・強化
13	国家試験第一課題	第1ブロックとチェックカット導入・定期試験について
14	国家試験第一課題 L23ウィッグ②	全頭カット50分
15	定期試験 L23ウィッグ③	全頭カット50分

科目名 (英)	美容実習Ⅱ ワインディング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城 裕美
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	月1~4限、水1~4限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的: 国家試験の目標タイムに近づけていく 概要: スピードアップのほか作品の確認も学んでいく					
到達目標	美容師科の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができ ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	ロッドとペーパーで巻き込みを素早くできるようにしておくとい	
教材	WD用具一式					
特記事項	同じことの繰り返しになるが目標を持ち取り組んでいく					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	前期のふりかえり	センター10分 右側14分 左側12分 全頭35分でタイムを計る
2	国家試験スタイル	全頭目標30分 センター8分 右側12分 左側10分
3	国家試験スタイル	タイムトライアル30分まで ブロックごとにタイムを計る
4	国家試験スタイル	タイムトライアル30分まで ブロックごとにタイムを計る
5	中間試験について	全頭28分 ブロックごとにタイムを計る 作品の確認
6	中間試験の流れ	全頭30分 作品の確認
7	中間試験	全頭30分 作品の確認
8	国家試験スタイル	2分で5本巻く タイムトライアル28分まで
9	国家試験スタイル	センター7分 右側10分 左側8分 全頭目標25分
10	国家試験スタイル	タイムトライアル25分まで ブロックごとにタイムを計る
11	国家試験スタイル	タイムトライアル25分まで ブロックごとにタイムを計る
12	国家試験スタイル	全頭25分 ブロックごとにタイムを計る
13	定期試験について	全頭25分 作品の確認 修正 練習
14	定期試験の流れ	全頭25分 作品の確認 修正 練習
15	定期試験	全頭25分 作品の確認

科目名 (英)	美容実習 I オールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	1年	実務経験	担当	小坏亜矢子 助手 足立祐季
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60時間	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	月1～4限、水1～4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶ事の苦手意識が克服できるように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術を学び、国家試験に合格するちからをつける。 概要:国家試験科目である、オールウェーブセッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I		事前事後 学習と その内容 マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解し、習得できるよう復習する。			
教材	マニュアル / 動画					
特記事項	マニュアル / 動画にたくさん細かい説明等を書きこむ。理解できなかった事は、その日に必ず質問し、理解しないままにしない。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・教材について ・1段目馬蹄形を作る	・用具の説明、セッティング ・ローションのつけ方 ・コームの使い方 ・マニュアル配布 ・ハーフウェーブの作り方 ・馬蹄形を作る
2	・1段目馬蹄形の復習 ・1段目スカルプチュアカールを作る	・正しい馬蹄形を作る * 立ち位置、指の向きにきをつける ・スカルプチュアカールの作り方、スライス取り、ピンギを覚える(8分)
3	・スカルプチュアカールをタイムで作る ・2段目半円シェープとリッジを作る	・スカルプチュアカール6分 ・2段目かき出し、半円シェープ、リッジの作り方を覚える
4	・2段目リッジまでの復習	・スカルプチュアカール6分 ・馬蹄形～2段目リッジまで15分 ・正確な半円とリッジを作る
5	・中間試験について ・3段目の分け取りと3段目左右ウェーブを作る	・中間試験採点項目を把握する ・3段目左右ウェーブを幅や分け取り方を注意して作る
6	・中間試験について ・3段目の左右ウェーブまで	・2段目リッジまで15分 / 3段目の半円、分け取り、左右ウェーブ5分 ・馬蹄形～3段目左右ウェーブまで20分
7	中間試験	試験内容:馬蹄形～3段目左右ウェーブまで 20分 採点・評価・振り返り
8	・中間試験までの復習 ・3段目スカルプチュアカールを作る ・カールスペースを習得する	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・馬蹄形～3段目スカルプチュアカールまで25分 ・セニングを入れる
9	・左右7段ウェーブを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・セニングを入れる
10	・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み)
11	・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ25分(3段目スカルプチュアカール込み) ・4段目リフトカールの作り方を覚える
12	・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ25分(3段目スカルプチュアカール込み) ・4段目リフトカールのクォリティーアップ(5分)★位置・大きさ・ステム強化
13	・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ ・3. 4段目カールのクォリティーとタイムアップ ・期末試験について	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・4段目リフトカールまで30分 ・期末試験の採点項目を把握
14	・期末試験前の強化	・期末試験の採点項目を理解し、忠実に仕上げる ・4段目リフトカールまで30分
15	期末試験	試験内容:4段目リフトカールまで30分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容総合技術 I Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹、福島裕司、井上秀浩、荒谷健太 武田郁乃、岩本理絵、我妻優子、 福田美幸、南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	180	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	6			曜日・時間
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく